

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑨【仲間や地域の人々とのつながり】 ⑩【ボランティア】 ⑫【自分と地域社会】 ⑬【地域づくり】	総合的な学習の時間

【題 材 : 対 象】郷土軽米でのボランティア活動『おかげさま活動』: 3 学年

【実践の概要・詳細】 1

軽米中3 学年に代々受け継がれる『おかげさま活動』は自分達を育ててくれた郷土への感謝の想いを行動で示すボランティア活動です。毎年自分達で内容を企画し、準備・実行しています。今年は地域を支えた方々に敬意の気持ちを込めて老人ホームへの慰問・共に地域を支えていく仲間との交流のための保育園訪問・自然豊かな山間部国道沿いのゴミ拾い・町内で一番磨いてほしい公衆トイレ清掃・花一杯事業参加の芝桜植栽を行いました。温かい人のつながりのある社会・地域づくりという視点でそれぞれが自分達に出来るボランティア活動に精一杯取り組みました。



<活動の実際>

(1) 修学旅行班別自主研修震災復興活動取材

修学旅行で東京の人々の復興支援活動を知り、東北震災復興に寄せる想いにふれ、東北に住む自分たちにできること・していかなければならないことを考えました。まずは自分たちの郷土軽米で実行していくことを決めました。



(2) 軽米町長 山本賢一氏 講話会実施

軽米町の現状を知るため軽米町長さんに講演を依頼。洪水災害からの復興指揮を執られ、災害に強い町づくりを目指してきた歴史や軽米町の抱える現状・これからの展望について伺いました。

(3) 軽米町分析

自分たちで軽米町の現状を、

『軽米町の強み』

○良いところ・お勧めポイント・誇れるところ

○町が頑張っていること・力を入れていること

『軽米町の課題』

●課題・困っていること、

『軽米人として大切なこと』 ◎軽米人として知っておくべきこと

◎伝えていくべきこと

について分析し、町が必要としていることについて考えをまとめました。



(4) 今年度実施したおかげさま活動

〔福祉グループ〕 特養老人ホーム「いちい荘」訪問→軽米町を支えてこられた方々との交流
 軽米保育園訪問→これからの町を共に支える仲間との交流

〔環境グループ〕 国道沿い・河川敷ゴミ拾い
 公衆トイレ清掃

〔学年〕 花一杯芝桜植栽活動



軽米町ホームページ
 イメージキャラクター
 ヒエボーン

【実践の概要・詳細】 2

軽米中現3学年が1学年だった2年前、総合学習で軽米町の災害復興の歴史を学びました。11年前、豪雨水害に見舞われ甚大な被害に遭ったこと、しかしその中で死者0という奇跡があったこと、その事実の裏で行われた決死の救出劇、全国から寄せられた義捐金1億円、わずか5年で復興を果たした復興の担い手たち、災害に強い町づくりを目指した取り組みの数々など、今年度『軽米人として知っておかなければならないこと』と生徒たちが挙げた内容を、町の事業所や個人を回って取材し、学習しました。生徒たちはその学びを次の世代に伝えたいと考え、隣接する小学校で当時、河川の学習をしていた4年生を学校に招待し、劇仕立てにして発表しました。その時にある約束をしました。『それぞれが学校の最上級生となる2年後に、共に協力して軽米町のために活動しよう』というものでした。今年度、ようやくその約束を実行することができました。

果たせた約束 郷土軽米のために

＜活動の実際＞

(1) 小学生との『おかげさま活動第2弾』計画

軽米町の現状を知るため伺った軽米町長さんのお話の中で、軽米町が目指す『花一杯活動』の事業の一つ『芝桜植栽』を自分たちの手で行うことに決定しました。

(2) 『おかげさま活動第2弾その①』実施

『芝桜植栽』の手順を確認するため、軽米中学校の武道館前に植栽を行いました。この道は軽米小学校から、軽米中の昇降口へ向かう通学路でもあり、来年の春新入生となる6年生を芝桜で迎える意味もありました。

(3) 3学年生徒会と小学校6学年児童会との活動打ち合わせ

町の担当者の方と打ち合わせた内容を、3学年生徒会が小学校を訪問して『おかげさま活動第2弾その②』の内容・手順を伝えました。

(4) 小学生と協力して町への『おかげさま活動』実施

毎年実施している軽米町主催『ハートフル競技場 ボランティア芝桜植栽事業』の準備作業を担当しました。翌日の実施に向けて、植栽場所を分けけしたり、色別芝桜苗の設置を行ったりしました。

各班毎に小学生のグループと共同で活動し、交流しながら作業することができました。最後に、自分たちでも植栽を行いました。2年越しの約束を果たすことができました。



【まとめ】

震災から2年が過ぎましたが、今年度も様々な機会を通して『震災復興』への思いや復興支援の担い手としての意識を自覚する生徒の姿が見られました。まずは仲間との関係づくりや身近な郷土を支える自分たちの役割を果たせる「ひとづくり」をこれからも目指してきます。今後は合唱を通して、人を励まし元気を与えられるような取り組みも加え、継続による深化を目指して取り組んでいきたいと思ひます。